

## 内閣 官房長官 表彰

### 伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合

所在地：神奈川県横浜市中区末広町2-6-10

横浜の中心的商店街の一つ  
講評 伊勢佐木町は、昭和53年の商店街のモール化から「人に優しいまち」をコンセプトとして、24時間歩行者天国、歩車道及び道路・店舗の段差解消、ベンチの設置などに取り組んできた。平成11年には、伊勢佐木町1・2丁目地区を含む関内駅を中心とする半径500m以内の地域が、横浜市の「関内駅周辺福祉のまちづくり重点推進地区」に指定された。伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合は、推進地区の協議会活動を通じて行政やNPO、障害者団体などとの連携を深め、ハード面が主であったバリアフリー化をソフト面の取組みにも発展させることとなった。このような中で同振興組合が中心となって、平成13年頃より障害のある人が講師として参加する「バリアフリー接客術勉強会」や伊勢佐木町、馬車道、地下街「マリナード」の各店舗のショーウィンドや店内に障害者の作品（総計約300～600点）を展示する「福祉のアート展」、障害のある人を中心に障害のない人も共に協力して神社の例大祭でみこしを担ぐ「車いす神輿」などの活動に取り組んできた。

人に優しいまちづくりを目指す同地域は、今後、ツーリストインフォメーション機能や交番機能を備えた障害のある人などのための拠点を作ろうとしている。



バリアフリー接客術勉強会で意見交換



商店街が美術館福祉のアート展



お三の宮秋祭り 車いす神輿

## 内閣 官房長官 表彰

### 岐阜経済大学まちなか共同研究室 マイスター倶楽部

所在地：岐阜県大垣市高屋町1-65 大垣ビル1F

「大垣市中心市街地活性化基本計画」策定  
講評 部会の委員として参加した学生2名が、市街地の活性化を、従来の商店街振興の視点からではなく、交通弱者の視点から推進することの重要性を指摘したことを契機に、平成11年4月、同倶楽部内に「バリアフリー研究グループ」が誕生した。以来、バリアフリーマップの作成、市民交流イベント「まちかどバリアウォークラリー体験調査」の実施、高齢者や障害のある市民にとって利用しやすい商店「お助けパーソンのお店」の認定、フォーラムやシンポジウムの開催やノンステップバス体験試乗会などのさまざまな活動に取り組んでいる。さらに、近年は、コンビニエンスストアを媒体に住民が安心して住み続けられる環境づくりを進めようとする実証実験を、コンビニエンスストアや行政と共に行う一方、地元の小・中学校における体験学習や岐阜県を含め東海地方のバリアフリー教育に取り組む高校にアドバイザーとして出向くなど、多彩な活動を繰り返している。また、自主的な調査研究をもとに行政や地元商店街に対する提言も積極的に行うなど、行政や民間を動かす契機にもなっている。

この事例では、同大学の学生を中心に、商店街や交通事業者、行政、障害者、NPOやボランティア、地域の小・中・高生や他大学生などさまざまな人びとが互いに良好な関係を保ちながら、実践活動を続けている。運営費は、大学、大垣市、大垣市TMO、大垣商工会議所などが分担しており、活動内容は、バリアフリーだけでなく、まちづくりや生涯教育など広範にわたっている。



JR大垣駅前のマイスター倶楽部玄関



中学生とともに公共施設のバリアフリーを調査中